

ペルー ハスアボカドの業界団体は品質と販促への取組みを再確認

[FreshFruitPortal 2025年4月8日](#)

ペルーのハスアボカド生産者輸出業者協会(ProHass)は、米国の10%の基本関税の発表を受けて声明を発表した。同協会は、戦略的提携とマーケティングへの投資を通じて世界的なプレゼンスを強化することによるハスアボカドの販売促進の取組みを再確認した。LinkedIn(ビジネス向けSNS)のアカウントで公開された声明で同協会は、その主要な取り組みの1つを、ヨーロッパでのアボカドの販促を担当する世界アボカド機構(WAO)と、米国でアボカドの消費を促進するペルー・アボカド委員会(PAC)を通じて行うと説明した。

世界におけるペルー産ハスアボカド ペルーは、7万7千ヘクタール以上でハスアボカドを栽培し、すでに世界第2位の生産・輸出国としての地位を固めている。輸出市場としては欧州が57%で、次いで米国(17%)、チリ(10%)、中国(7%)が続き、その他の市場が全体の9%を占めている。3年間の悪天候の後、2025年シーズンの予測は楽観的で、37%の成長が見込まれている。特に、昨年は2023年と比較して10%減少し、同年内には2022年と比較して1%しか成長しなかったことを考えると、これは大幅な回復を意味している。

輸出の増加に加え、ペルーにおけるハスアボカドの国内消費量は着実に増加している。より多くのペルーグループが、その高い栄養価と郷土料理の中での利用方法の多様性に魅かれて、この果実を食事に取り入れている。この傾向をさらに促進するために、ProHassは、ハスアボカドの栄養上の利点と調理方法の多様性を強調する全国キャンペーンを開始する。

このセクターの成長に照らして、ProHassは、生産・輸出体制全体での戦略的かつ協調的な計画を呼び掛けた。この文脈では、產品の品質を最適化することが不可欠である。同協会は、すべての生産者と輸出業者に対し、必要な品質基準(例えば果実の十分な熟成、風味、及び消費者による受け入れを確保するため乾物含有率は最低22%が必須であること等)への適合を確認するよう促した。

南アフリカ 西ケープ州のアボカド生産が拡大

[FreshPlaza 2025年4月10日](#)

南アフリカ・アボカド生産者協会(Saaga)は最近ジョージ市(西ケープ州)で開催したイベントで、ジョージ、ヘルダーバーグ盆地、リービークカスティール等の地域でのアボカド生産の拡大を強調した。焦点は、業界の見通しと地元の生産者へのその影響であった。同協会の次回の勉強会は5月6日に予定されている。

ステレンボッシュ大学は、特にジョージ地域でのアボカドに関する研究の取組みを強化している。同大学の亜熱帯研究ユニットは、60kgの吊り上げが可能なAI搭載型の農業用ドローンの活用について国際的なNIKグループ(親会社ブルガリア)と提携している。最初の試験はジョージ地域で予定されている。

このイベントでは、ステレンボッシュ大学のアンドレ・ヨースト教授とアネル・ブランケンベルグ博士が洞察を発表した。ヨースト教授は、多様化と市場機会について論じ、南アフリカの生産者が中国とインドの市場にアクセスする必要性を強調した。ブランケンベルグ博士は、ツアニーン市で最近開催された研究シンポジウムの最新情報を紹介し、南ケープ州で計画されている研究の概要を説明した。同博士は、北部の亜熱帯地域から西ケープ州への生産の移行が、ヨーロッパ向け輸出シーズンを延長するチャンスを提供すると指摘した。

「グレート・ブラック・アボス」プロジェクトのガイ・ウィットニー博士は、西ケープ州のアボカド生産量が2017年の135ヘクタールから現在は1,250ヘクタール以上に増加したことを強調した。同博士は、「我々はシーズン後半の生産者であり、作物は9月に主産地であるローヴェルド地域の出荷が終わった後に収穫される。すなわち、西ケープ州では9月から1月にかけて果実を収穫する。今季(昨シーズン、2024年~2025年初頭)は西ケープ州で3千トン強の果実を収穫した。2025年には多くの新しい果樹園が出荷を開始するため、初期段階の収穫予測としては、5千トンから6,500トンの間と見ていく」と述べた。

ウィットニー氏はまた、国内市場への供給についても言及し、「2024年12月から2025年2月にかけて、国内市場では地元産の果実が供給不足になり、価格が高騰した。今シーズンは、果実の供給量がはるかに多いため、消費者価格は前シーズンに比べて軟調になると予想している」と指摘した。同博士はさらに、トランプ大統領がアボカド生産国を含む他国の製品に課した関税による輸出市場の不安定性に関しコメントした。

出典: George Herald